

第 611 回 高崎研オープンセミナー

研究を効果的に伝えるための ビジュアル・コミュニケーション

講演

有賀雅奈 博士



東北大学
研究推進本部URAセンター 特任助教

講演の詳細は下記URLをご参照ください
http://www.taka.qst.go.jp/information/index_j.php

場所

量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所
総合管理棟3階 多目的ホール

〒370-1292 群馬県高崎市綿貫町1233番地
<http://www.taka.qst.go.jp/access.php>

日時

平成 29 年 1 月 10 日 火曜日
15:00 ~ 16:30

研究を効果的に伝えるためのビジュアル・コミュニケーション

有賀雅奈 博士

東北大学 研究推進本部URAセンター 特任助教



講演要旨

近年研究者には、同分野の研究者により強いインパクトをもって研究成果を伝えること、さらには異分野研究者や研究者以外の人々とコミュニケーションすることが求められるようになってきている。そのなかで、研究成果や科学的な知識・情報をわかりやすく、アピールに伝える重要性は以前よりも増している。

科学をわかりやすく魅力的に伝えるためには、言語とともにビジュアルが力を発揮する。科学のビジュアルにはイラストレーションやデザイン、写真、画像、データビジュアリゼーション、グラフ、動画など様々な要素が含まれ、見る人の注意をひきつけ、記憶に残り、理解を高めることがわかっている。一方で、日本では科学専門のビジュアルを制作するプロフェッショナルが少なく、さらに研究者や学生がその技術を学ぶ機会も少ない。このため、その力を活かしていきれていないのが現状である。

筆者はこのような現状を変えていくため、科学のビジュアル・コミュニケーション、なかでもイラストレーションとデザインをテーマに社会学的・歴史的な研究、制作実践、教育普及活動を行ってきた。研究においてはプロの科学専門イラストレーターと科学者がどのようにイラストを作り上げていくのかを明らかにし、実践においては大学でイラストレーター・デザイナーとして立ち上げ期のプロジェクト説明資料、申請書類等の制作を担い、教育においては学生や大学教職員向けに研究者のプレゼンや図解のデザインに役立つ視点や手法を紹介してきた。

本講演では、上記のような筆者の経験を踏まえ、科学のビジュアル・コミュニケーションという分野を紹介したうえで、特に研究者のプレゼンや図解の際に役立つデザインの考え方や手法を紹介する。パワーポイントの利用を前提に、伝わるデザインをする上ではどのような心構えを持つのが良いのか、すっきりとわかりやすくするには具体的にどんな工夫をしたらよいか、今後のコミュニケーションに役立つ視点をいくつかの実例を見せながら紹介する。

わかりやすいデザインを突き詰めていくと、単に見た目だけではなく、研究内容の気づきやブラッシュアップにもつながる。研究の力になるビジュアル・デザインのきっかけを、皆様に提供できたら幸いである。

量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所

総合管理棟3階 多目的ホール

平成29年1月10日 (火) 15:00 ~ 16:30